

展示案内

はやせ 早瀬土人形

早瀬土人形は、明治の中頃から約30年にわたって早瀬で作られていました。

この土人形の制作は当地の瓦職人が京都の伏見人形の制作技法を学んだものといわれ、その作りは伏見人形との共通点が数多く見られます。内容も節供、歌舞伎、風俗、信仰・縁起、動物など多くの種類があります。

そしてこのころの佐用郡では、節供に飾ったり、祀ったりする人形のなかに土人形も使用されており、早瀬土人形も数多く用いられていたようです。

当館ではこれら土人形の一部を展示しています。



上月城跡平面図（館内展示にもあり）



こうづき かつせん 上月合戦

戦国時代の天正五(1577)年から六年にかけて、この城を舞台に合戦が行われました。このとき上月城は、全国統一をめざし中国地方へ侵攻する織田勢と中国の毛利勢との勢力の境に位置し、交通と防衛の要地でした。

天正5年11月、時の上月城主・赤松政範は毛利方についていました。織田方の羽柴秀吉の侵攻に対して、上月城とともに抗戦した福原城は早くに落とされ、備前の宇喜多氏の支援軍も敗退し、上月城は滅ぼされています。秀吉軍と宇喜多軍との激しい戦いが行われた場所は「戦(たたかい)」の地名が残されています。

この山頂には赤松政範以下の戦死者を供養する250回忌の供養碑がありますが、秀吉は上月方の女・子供を磔・串刺しにして国境にさらすなど残虐なことをしたと伝えられます。秀吉は上月城に尼子勝久・山中鹿介主従を入れて守らせますが、天正六年4月には、毛利方の小早川・吉川らの軍に包囲されます。

支援に向かった秀吉は高倉山に陣をおきますが、信長から撤退を命じられたため、2ヶ月以上の籠城の末、尼子勝久は切腹、山中鹿介は捕らえられ、毛利陣への連行中に殺されてしまいます。

上月城周辺に残る多くの山城跡や史跡は、毛利・織田両軍の一大決戦地であったことを物語っています。

～上月城跡・案内解説板より～

展示案内

はやせ 早瀬土人形

早瀬土人形は、明治の中頃から約30年にわたって早瀬で作られていました。

この土人形の制作は当地の瓦職人が京都の伏見人形の制作技法を学んだものといわれ、その作りは伏見人形との共通点が数多く見られます。内容も節供、歌舞伎、風俗、信仰・縁起、動物など多くの種類があります。

そしてこのころの佐用郡では、節供に飾ったり、祀ったりする人形のなかに土人形も使用されており、早瀬土人形も数多く用いられていたようです。

当館ではこれら土人形の一部を展示しています。



上月城跡平面図 (館内展示にもあり)



こうつき かつせん 上月合戦

戦国時代の天正五(1577)年から六年にかけて、この城を舞台に合戦が行われました。このとき上月城は、全国統一をめざし中国地方へ侵攻する織田勢と中国の毛利勢との勢力の境に位置し、交通と防衛の要地でした。

天正5年11月、時の上月城主・赤松政範は毛利方についていました。織田方の羽柴秀吉の侵攻に対して、上月城とともに抗戦した福原城は早くに落とされ、備前の宇喜多氏の支援軍も敗退し、上月城は滅ぼされてしまいます。秀吉軍と宇喜多軍との激しい戦いが行われた場所は「戦(たたかい)」の地名が残されています。

この山頂には赤松政範以下の戦死者を供養する250回忌の供養碑がありますが、秀吉は上月方の女子供を磔・串刺しにして国境にさらすなど残虐なことをしたと伝えられます。秀吉は上月城に尼子勝久・山中鹿介主従を入れて守らせますが、天正六年4月には、毛利方の小早川・吉川らの軍に包囲されます。

支援に向かった秀吉は高倉山に陣をおきますが、信長から撤退を命じられたため、2ヶ月以上の籠城の末、尼子勝久は切腹、山中鹿介は捕らえられ、毛利陣への連行中に殺されてしまいます。

上月城周辺に残る多くの山城跡や史跡は、毛利・織田両軍の一大決戦地であったことを物語っています。

～上月城跡・案内解説板より～